横浜市栄区セーフコミュニティ

概要説明

栄区副区長　見上　正一

栄区の概要

- 人口　約12万１千人
- 高齢化率　約30.1％
- 世帯　約5万世帯
- 面積　18.55ｋ㎡

図１　横浜市栄区の位置

豊かな水と緑の環境

- 区の東部には、横浜自然観察の森など、大規模で良好な自然が残る
- 区の中央をシンボルリバーいたち川が流れる
- 緑被率は40.6%で市内18区中第２位

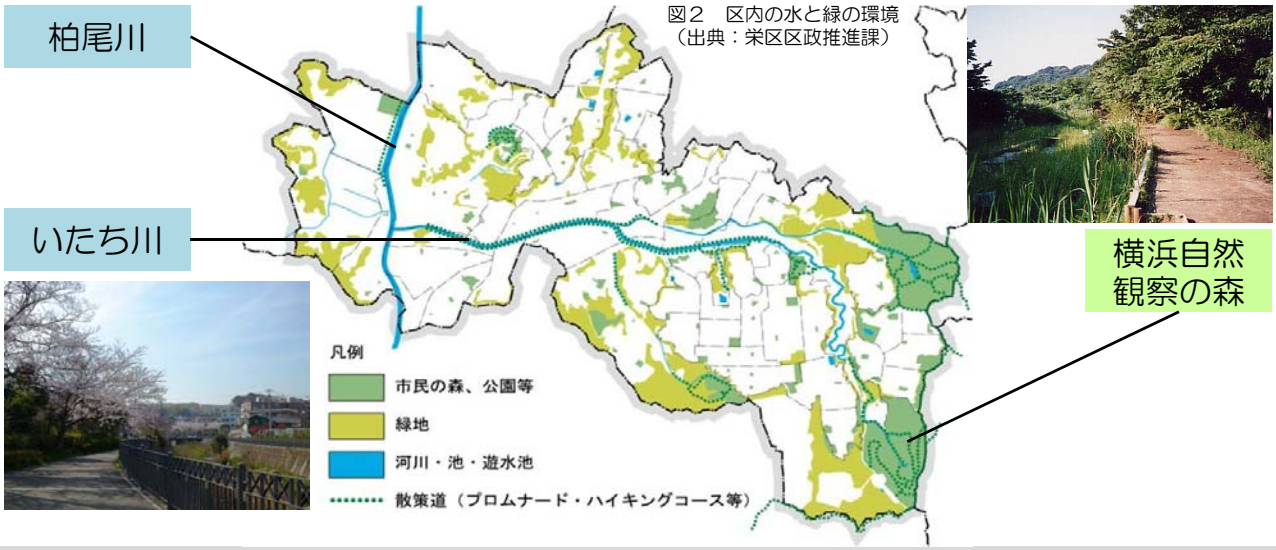


図２　区内の水と緑の環境
（出典：栄区区政推進課）

1960～70年代の大規模宅地開発

- 1960～70年代にかけて大規模な宅地開発が行われ、住宅街に変貌

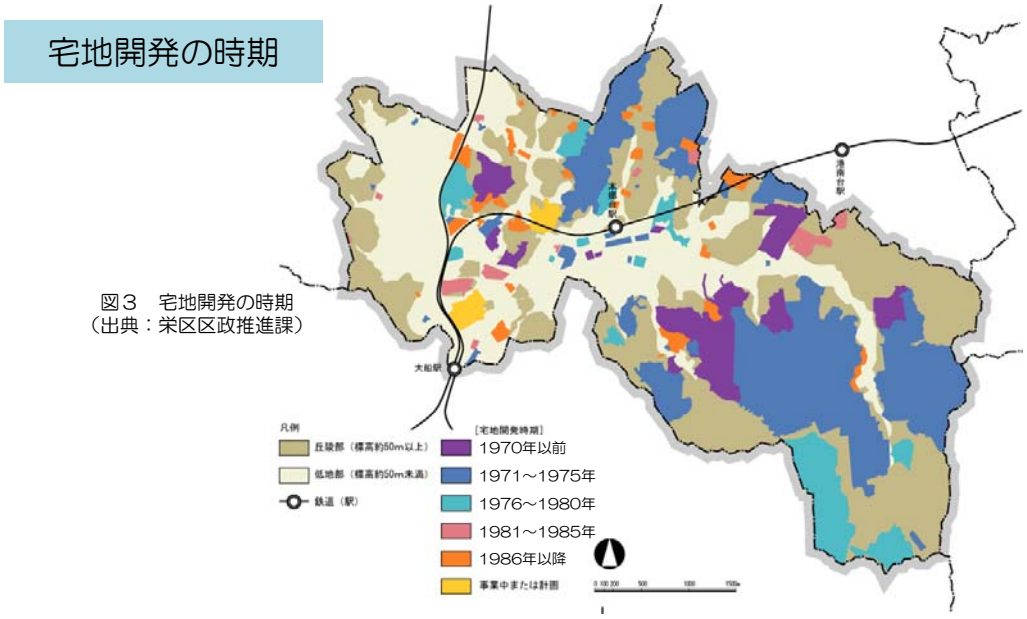
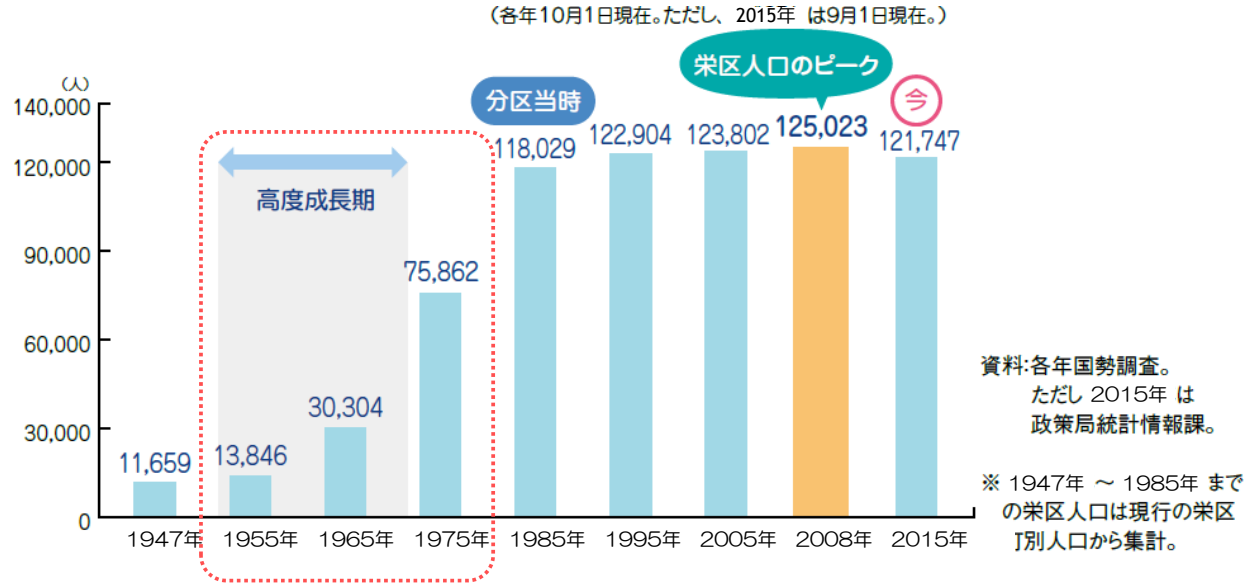


図３　宅地開発の時期
（出典：栄区区政推進課）

区内人口の推移

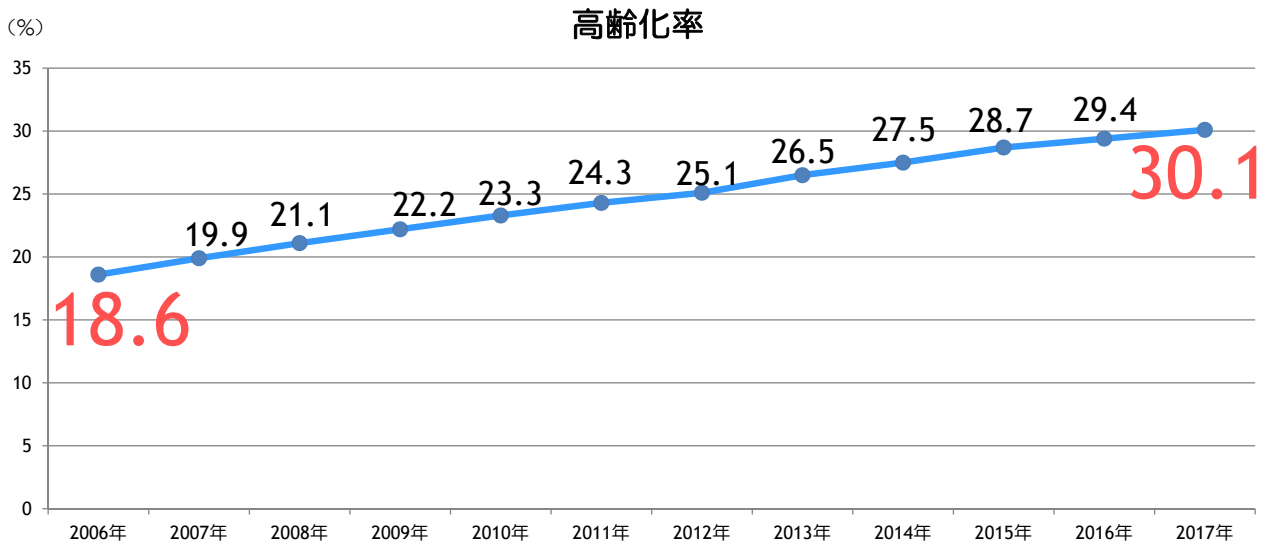
- 宅地開発により、1960～70年代に人口が急増
- 2008年をピークに人口は減少傾向



グラフ１　区内人口の推移
（出典：栄区総務課統計選挙係）

高齢化率の推移

- 区内の高齢化率（全人口に占める65歳以上の人口の割合）は10年でおよそ10%上昇、急速な高齢化が進んでいる

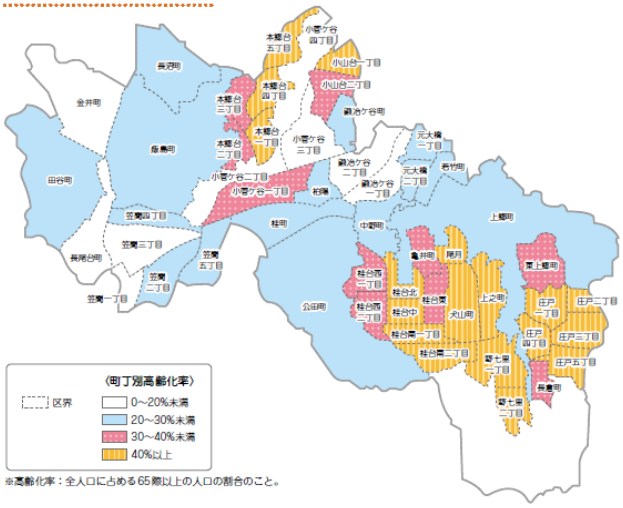


グラフ２　区内高齢化率の推移
（出典：横浜市統計ポータルサイト　2006年～2017年）

町丁別高齢化率

- 町丁別高齢化率を見ると、既に高齢化率50%を超えている地域もある

▶町丁別高齢化率（※）



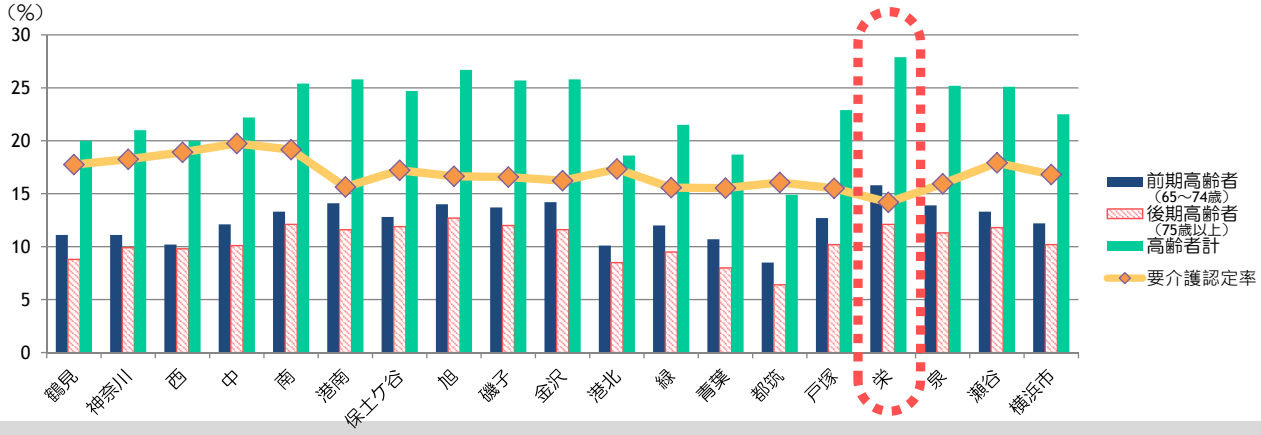
町名	65歳以上		町名	65歳以上		町名	65歳以上	
	人口	割合		人口	割合		人口	割合
総数	35,104	28.4%						
上郷町	1,217	21.2%	長尾台町	389	19.9%	長倉町	190	34.6%
公田町	2,939	29.6%	田谷町	416	28.8%	東上郷町	905	36.4%
中野町	477	24.9%	金井町	X	X	犬山町	1,335	45.2%
鍛冶ケ谷町	442	28.8%	飯島町	3,336	23.3%	尾月	472	45.1%
鍛冶ケ谷一丁目	316	15.4%	長沼町	1,135	22.5%	上之町	894	43.1%
鍛冶ケ谷二丁目	612	16.6%	本郷台一丁目	398	40.8%	亀井町	424	31.5%
小菅ケ谷町	X	X	本郷台二丁目	377	37.9%	野七里一丁目	1,265	40.5%
小菅ケ谷一丁目	1,430	30.6%	本郷台三丁目	544	32.4%	野七里二丁目	294	50.0%
小菅ケ谷二丁目	606	18.7%	本郷台四丁目	462	42.7%	小山台一丁目	428	46.3%
小菅ケ谷三丁目	696	17.8%	本郷台五丁目	482	41.3%	小山台二丁目	624	37.6%
小菅ケ谷四丁目	250	11.4%	若竹町	562	28.6%	柏陽	322	29.9%
桂町	950	24.5%	元大橋一丁目	579	29.2%	桂台北	501	47.3%
笠間町	0	0.0%	元大橋二丁目	304	25.1%	桂台中	302	46.4%
笠間一丁目	192	16.4%	庄戸一丁目	338	55.7%	桂台西一丁目	744	37.4%
笠間二丁目	535	21.6%	庄戸二丁目	256	51.8%	桂台西二丁目	474	33.3%
笠間三丁目	1,476	18.3%	庄戸三丁目	420	49.5%	桂台東	615	35.2%
笠間四丁目	546	28.7%	庄戸四丁目	267	46.9%	桂台南一丁目	474	51.6%
笠間五丁目	619	23.9%	庄戸五丁目	342	48.7%	桂台南二丁目	823	54.0%

図４　町丁別高齢化率
（出典：栄区総務課統計選挙係　2015年３月31日時点）

元気な高齢者が多い区

- 栄区の高齢化率は横浜市18区の中で１位（30.1%）
- 区内では65歳～74歳の前期高齢者の割合が高い（高齢者の56.6%）
- 要介護認定率（※）は市内で最も低く、元気な高齢者が多い
  （栄区14.19%、横浜市16.81%）

（※）要介護認定率とは
介護保険を受けるにあたり、要介護・要支援と認定された人の割合。

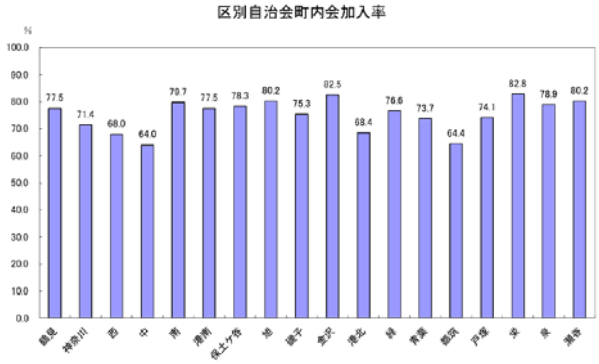


グラフ３　横浜市各区の高齢者数と要介護認定率
（出典：横浜市健康福祉局高齢健康福祉部　区別高齢者人口　2014年９月30日時点）

地域コミュニティを支える自治会町内会

- 自治会町内会（住民による自治組織）…88
- 連合町内会（自治会町内会の連合）…7

図５　連合町内会地図
（出典：栄区地域振興課）



グラフ４　区別自治会町内会加入率
（出典：横浜市市民局市民協働推進部　2016年４月１日時点の自治会町内会加入状況

自治会・町内会加入率　82.8%
（市内No.1）

区内の外傷による死亡数

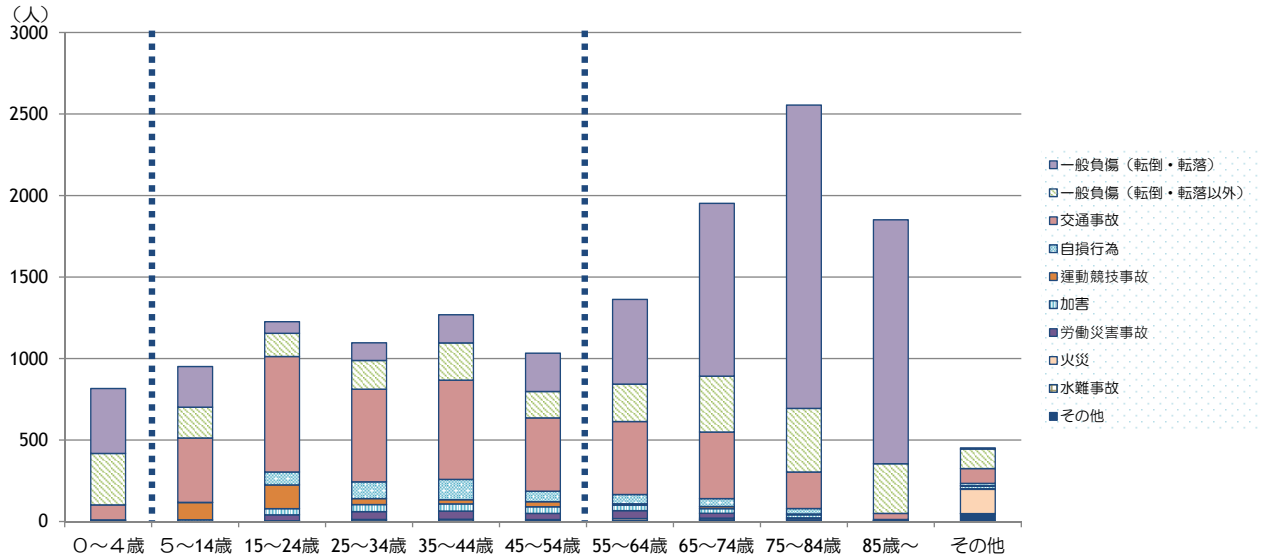
- 外傷による死因は、０歳～14歳は交通事故や不慮の窒息、溺死・溺水が多い
- 15歳～74歳までの幅広い世代で死因第１位を自殺が占める
- 75歳以降の後期高齢者の死因は溺死・溺水が第１位

	1位	2位	3位	4位	5位
0～4歳	不慮の窒息	―	―	―	―
5～14歳	交通事故、溺死及び溺水		不慮の窒息	―	―
15～24歳	自殺	交通事故	その他	転倒・転落	―
25～34歳	自殺	その他	交通事故	転倒・転落、溺死及び溺水、有害物質	
35～44歳	自殺	その他	交通事故	不慮の窒息	溺死及び溺水
45～54歳	自殺	その他	交通事故	転倒・転落	溺死及び溺水
55～64歳	自殺	その他	溺死及び溺水	交通事故	転倒・転落
65～74歳	自殺	溺死及び溺水	その他	転倒・転落	交通事故、不慮の窒息
75～84歳	溺死及び溺水	その他	転倒・転落	不慮の窒息	自殺
85歳～	溺死及び溺水	不慮の窒息	その他	転倒・転落	交通事故、自殺
全体	自殺	溺死及び溺水	その他	不慮の窒息	転倒・転落

表１　区内の外傷による死亡数
（出典：人口動態統計　2005年～2015年）

外傷における区内の救急搬送の状況

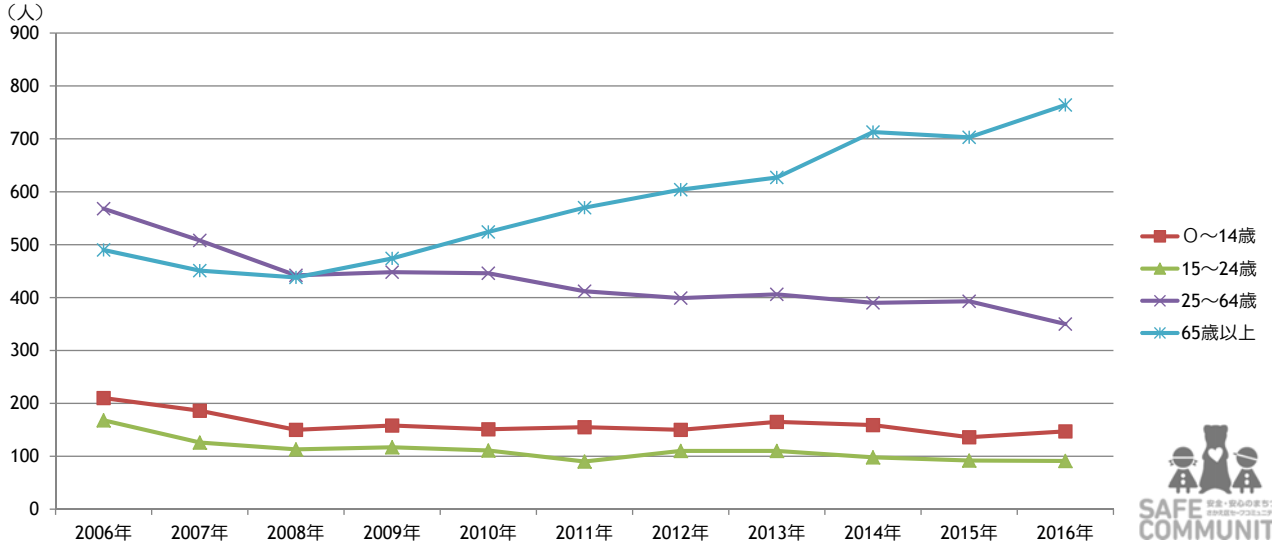
- 救急搬送件数は、０歳～４歳の乳幼児及び55歳以上について、転倒・転落が最も多くを占める
- ５歳～54歳までの幅広い年齢で、交通事故が救急搬送件数第１位



グラフ５　外傷における区内の救急搬送の状況
（出典：救急搬送データ　2006年～2016年速報値）

救急搬送件数の年代別件数推移

- 区内の救急搬送件数を年代別に見ると、高齢化に伴い65歳以上の件数が増加傾向にある
- 64歳以下の救急搬送件数については、横ばいか減少傾向



グラフ６　救急搬送件数の年代別絵件数推移
（出典：救急搬送データ　2006年～2016年速報値）

セーフコミュニティ導入経緯

□ 急速に進む高齢化及び人口減少への対応策として

増加傾向にある高齢者の救急搬送件数の抑制をはじめとする
区内の事故・けが予防

PDCAサイクルでの取組管理を行うことで、課題解決への意欲が向上し
地域コミュニティのさらなる活性化

区の強みである地域コミュニティの力を活かした
安全・安心なまちとしてのブランド形成

セーフコミュニティとしての分野横断的基盤を形成することで
多岐に渡る施策の統合的かつ効果的推進

セーフコミュニティ認証取得までの経過

時期	内容
2010年3月	活動開始を表明
2010年6月～9月	栄区セーフコミュニティ推進協議会 及び８つの分科会を設置
2011年6月	中間審査
2013年1月	本審査
2013年10月	認証（認証記念式典を開催）

表２　セーフコミュニティ認証取得までの経過

SAFE COMMUNITY

セーフコミュニティ認証取得（2013年10月５日）

図６　セーフコミュニティ認証記念式典
（2013年10月５日）

セーフコミュニティ認証取得後の経過

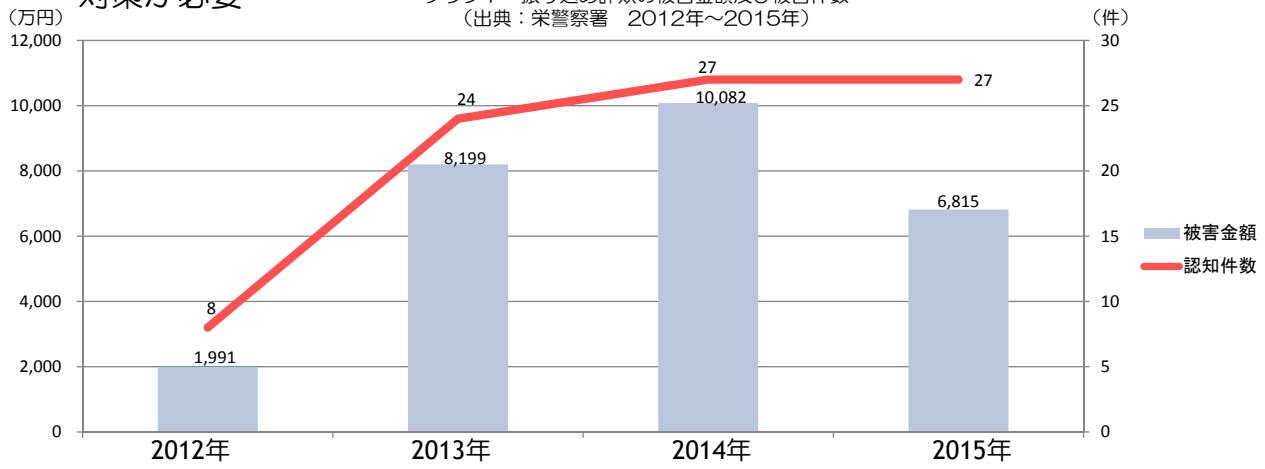
時期	内容
2014年４月	重点取組の追加を実施
2014年10月	セーフコミュニティフォーラムを開催
2014年10月	セーフコミュニティ月間（10月）設定
2015年７月	防犯対策分科会を設立
2015年10月	セーフコミュニティフォーラムを開催
2016年３月	プロモーション緊急対策を実施
2016年４月	各分野別分科会の指標見直しを実施
2017年１月～	サーベイランス分科会の体制見直しを実施

表３　セーフコミュニティ認証取得後の経過

防犯対策分科会の設立

- 近年、区内で振り込め詐欺の被害金額が急増
  →金銭的なダメージの他、心の傷を受けたことによる自死等を未然に防ぐための対策が必要

グラフ７　振り込め詐欺の被害金額及び被害件数
（出典：栄警察署　2012年～2015年）



2015年７月、新たに防犯対策分科会を設立

セーフコミュニティ
７つの指標に基づく取組

指標１　分野の垣根を超えた、協働を基盤とした推進組織を設置する

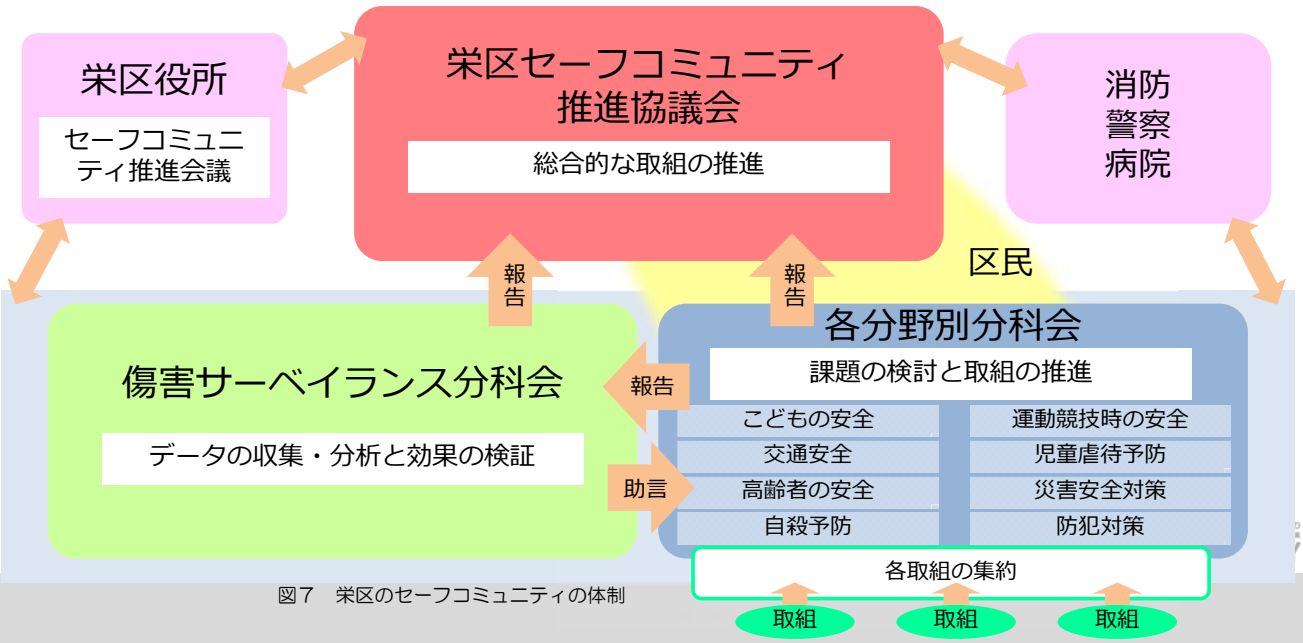


図７　栄区のセーフコミュニティの体制

セーフコミュニティ推進協議会

- 設　置：2010年7月
- 会　長：栄区長
- 委員数：26名
- 役　割：セーフコミュニティ活動の基本方針の決定
  セーフコミュニティ活動の推進と情報共有
  セーフコミュニティ活動の普及・啓発

図7　セーフコミュニティ推進協議会

セーフコミュニティ
７つの指標に基づく取組

指標２　両性・全年齢、あらゆる環境・状況をカバーする
プログラムを継続的に実施する

		こども	青年	成人	高齢者
不慮の要因	家庭	・養育者への啓発 ・訪問運動指導	・相談窓口の実施 ・犯罪発生情報の配信	・相談窓口の実施 ・犯罪発生情報の配信	・転倒予防の取組、住環境改善の普及 ・ヒートショック対策
	学校	・危険予知トレーニング ・小・中学校の遊具の点検	－	－	－
	スポーツ	・公園の遊具の点検 ・予防講習会	・予防講習会 ・ウオーキングの推進	・予防講習会 ・ウオーキングの推進	・予防講習会 ・ウオーキングの推進
	交通	・自転車ヘルメット着用啓発 ・はまっ子交通あんぜん教室 ・スクールゾーン対策	・各種啓発キャンペーン ・交通安全マップの活用	・各種啓発キャンペーン ・交通安全マップの活用	・高齢者交通安全教室
	災害	・保育所への防災講演会 ・学校と連携した防災訓練	・実践的な防災訓練の実施 ・地域避難所の設置及び訓練	・実践的な防災訓練の実施 ・地域避難所の設置及び訓練	・災害時要援護者支援の取組拡大 ・地域避難所の設置及び訓練
意図的要因	暴力	・さかえっ子の笑顔ひろげ隊 ・こんにちは赤ちゃん訪問	・DV相談支援	・DV相談支援	・地域の住民による見守り ・認知症サポーター
	自殺	・啓発活動の展開 ・ハートフルサポーター	・啓発活動の展開 ・ハートフルサポーター	・啓発活動の展開 ・ハートフルサポーター	・地域の住民による見守り ・ハートフルサポーター

（取組について主なものを抜粋）

表４　セーフコミュニティ指標２　マトリクス

セーフコミュニティ
７つの指標に基づく取組

指標３

ハイリスクの集団・環境および弱者を対象とした
プログラムを実施する

No	ハイリスクグループ	ハイリスクグループに設定した背景	ハイリスクグループを対象としたプログラム
1	救急搬送件数が多い０～４歳までの乳幼児	０～14歳までのこどもの中で救急搬送件数が多く、中でも転倒・転落が39%と多くを占める	・養育者への啓発 ・訪問運動指導
2	全年代における運動競技実施者	栄区での運動競技中の事故は、事故種別で最も多い一般負傷・交通事故を除くと第２位	・けが予防講習会の開催 ・ウオーキングの推進
3	交通事故による死傷者が多い15歳以下の若年層	交通事故による死傷者について横浜市全体と比較した際に、15歳以下の若年層についての死傷者割合が高い	・自転車ヘルメット着用啓発 ・スクールゾーン対策
4	児童虐待の被虐待者となりえる乳幼児・児童	児童虐待対応件数は増減を繰り返していたが、近年は増加傾向にあり、2016年の対応件数は５年前のおよそ３倍	・さかえっ子の笑顔ひろげ隊 ・こんにちは赤ちゃん訪問
5	救急搬送件数が多い65歳以上の高齢者	栄区全体の救急搬送件数のうち65歳以上の割合は55%を占める	・転倒予防の取組、住環境改善の普及 ・ヒートショック対策
6	全年代における災害時要援護者	過去の災害における災害時要援護者支援の重要性から、災害時に要援護の対象となる約5,000人	・災害時要援護者支援の取組拡大
7	自殺による死亡者数の割合が高い15～74歳の青年・成人	外傷による死亡数のうち、15～74歳の青年・成人について自殺が第１位となっている	・ハートフルサポーター ・ハイリスク者への支援強化
8	振り込め詐欺の被害者となりえる高齢者	被害金額が増加傾向にある振り込め詐欺の被害者のうち、96%を占めるのが60歳代以上の高齢者	・振り込め詐欺の被害者層への啓発実施

（取組について主なものを抜粋）

表５　セーフコミュニティ指標３　一覧

セーフコミュニティ
７つの指標に基づく取組

指標４

根拠に基づいた取組を実施する

情報収集

- 人口動態統計
- 救急搬送記録
- 各種アンケート
- 警察統計

課題抽出

課題	データ
こどもの安全対策	０～４歳の乳幼児について救急搬送が多い
運動競技時の安全対策	運動競技事故による救急搬送件数が多い
交通安全対策	幅広い年代で交通安全による救急搬送が多い
児童虐待予防	SC認証前まで児童虐待把握件数が増加していた
高齢者の安全	高齢者の増加に伴い高齢者の救急搬送件数も増加
災害安全対策	東日本大震災で区民の災害に対する意識が大きく向上
自殺予防	外傷による死者数は幅広い年代で自殺が１位
防犯対策	振り込め詐欺の認知件数・被害金額が大きく増加

分科会設置

- こどもの安全
- スポーツ安全
- 交通安全
- 児童虐待予防
- 高齢者の安全
- 災害安全対策
- 自殺予防
- 防犯対策

図８　セーフコミュニティ指標４　流れ

セーフコミュニティ
７つの指標に基づく取組

指標５　外傷が発生する頻度とその原因を記録する
プログラムを実施する

- 基本となる以下のデータを収集、分析。その他、必要に応じて独自で収集・分析したデータ等を使用している

No.	名称	実施主体	頻度	調査の内容		
				死亡	傷害	備考
1	人口動態統計	国	毎年	○		交通事故、転倒・転落、溺死・溺水、窒息、火、中毒、自殺、他殺
2	救急搬送記録 ※疾病（事故種別：急病及び転院搬送）を除く	横浜市消防局	毎年	○	○	交通事故、転倒・転落、溺死・溺水、窒息、火、中毒、自損、加害
3	区民意識調査 区民アンケート SCアンケート	栄区	毎年			区民の意識・行動の変化
4	学校アンケート	栄区	毎年			小学生・中学生の意識・行動の変化
5	警察統計	栄警察署	毎年	○	○	交通事故、犯罪

表６　セーフコミュニティ指標４　基本データ一覧

基本データの全体像

区分	0～14歳	15～64歳	65歳～
死亡	1．人口動態統計		
重症	2．救急搬送記録 5．警察統計		
中等症			
軽症			
ヒヤリハット	4．学校アンケート	3．区民意識調査・区民アンケート・SCアンケート	

表７　セーフコミュニティ指標４　基本データの全体像

基本データと
８つの分野別分科会との関連

No.	名称	こども	スポーツ	交通	虐待	高齢	災害	自殺	防犯
1	人口動態統計	○	○	○	○	○	○	○	○
2	救急搬送記録	○	○	○		○		○	
3	区民意識調査 区民アンケート SCアンケート		○				○	○	○
4	学校アンケート	○	○	○					
5	警察統計			○				○	○
6	その他の 独自データ	○ （乳幼児健診時アンケート等）	○ （分科会へのアンケート結果等）	○ （道路局のデータ等）	○ （こども青少年局のデータ等）		○ （防災白書等）	○ （市民意識調査等）	○ （市民局のデータ等）

表８　セーフコミュニティ指標４　８つの分野別分科会との関連

セーフコミュニティ
７つの指標に基づく取組

指標６　プログラムの内容・実施行程・影響を
アセスメントするための評価基準を設置する

傷害サーベイランス分科会の設置

- 設　置：2010年９月
- 委員数：アドバイザリーチーム４名、実務チーム７名
- 役　割：セーフコミュニティに係るデータの収集・分析
  地域診断
  セーフコミュニティの取組に対する評価
  セーフコミュニティの取組の効果検証
  セーフコミュニティの取組に関する提言

傷害サーベイランス分科会
委員構成の変遷

- 2012～2016年度は、取組のアウトカムに対する評価に重点を置くためにアドバイザリーチームのみの構成に。加えて、2017年度以降、データ収集・分析の精度向上のために、データを実際に取り扱うメンバーを中心に実務チームを再結成。

	～2011年度	2012～2016年度	2017年度～
アドバイザリーチーム	大妻女子大学教授 横浜市立大学教授	大妻女子大学教授 横浜市立大学教授 横浜市立大学教授 横浜国立大学教授 聖徳大学教授	横浜市立大学教授 横浜市立大学教授 横浜国立大学教授 聖徳大学教授
実務チーム	横浜市健康福祉局 横浜市衛生研究所 横浜市消防局 栄警察署 栄消防署 栄区役所	事務局（区役所）にてデータの収集・分析を実施	東海大学専任講師 横浜市健康福祉局 栄警察署 栄警察署 栄警察署 栄消防署 栄区福祉保健センター

図９　サーベイランス分科会
委員構成の変遷

取組の評価の流れ

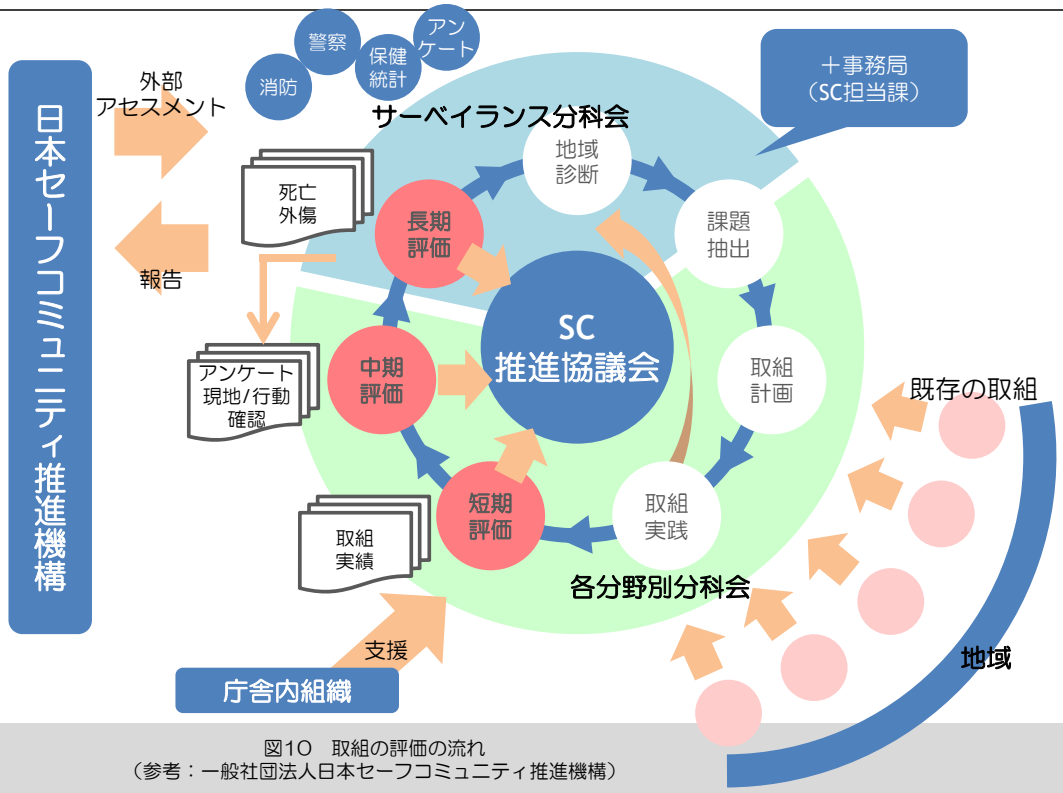


図10　取組の評価の流れ
（参考：一般社団法人日本セーフコミュニティ推進機構）

セーフコミュニティ
７つの指標に基づく取組

指標７	国内外のセーフコミュニティネットワークに継続的に参加する

□ 認証前のSCネットワーク　主な参加実績

年月	交流都市	内容	国内・海外
2010年３月	スウォン	国際セーフコミュニティ学会出席	海外
2010年３月	台北	台北国際シンポジウム出席	海外
2010年６月	厚木市	本審査視察	国内
2010年11月	厚木市	認証式出席	国内
2011年４月	台北	トラベリングセミナー出席	海外
2011年12月	ファールン	セーフコミュニティ国際会議出席	海外
2012年２月	豊島区	本審査視察	国内

表９　セーフコミュニティ指標７　認証前のSCネットワーク
主な参加実績

認証後のSCネットワーク　主な参加実績

年月	交流都市	内容	区分
2014年５月	釜山	アジア地域SC会議出席	海外
2014年10月	松原市	さかえSCフォーラム講演依頼	国内
2014年10月	鹿児島市	事前指導視察	国内
2014年10月	厚木市	事前指導視察	国内
2015年２月	北本市	認証式出席	国内
2015年２月	十和田市	再認証式出席	国内
2015年７月	秩父市	本審査視察	国内
2015年７月	厚木市	再認証本審査視察	国内
2015年10月	箕輪町	さかえSCフォーラム講演依頼	国内
2015年11月	厚木市	再認証式出席	国内

年月	交流都市	内容	区分
2015年11月	秩父市	認証式出席	国内
2016年２月	甲賀市	認証式出席	国内
2016年６月	秩父市	合同対策委員会視察	国内
2016年８月	箕輪町	事前指導視察	国内
2016年８月	泉大津市	本審査視察	国内
2016年10月	泉大津市	認証式出席	国内
2016年11月	郡山市	事前指導視察	国内
2016年12月	豊島区	事前指導視察	国内
2017年２月	箕輪町	本審査視察	国内
2017年５月	箕輪町	再認証式出席	国内

表10　セーフコミュニティ指標７　認証後のSCネットワーク
主な参加実績

セーフコミュニティのプロモーション

プロモーションに取り組む意義

セーフコミュニティとは何か、セーフコミュニティに取り組むとどんな良いことがあるかについて多くの方に「知ってもらう」ことで、セーフコミュニティ活動への参加者がさらに増え、より安全・安心なまちの実感へとつながります。

Step1
セーフコミュニティを
知る
地域の方々が「セーフコミュニティとは何か？」を理解します。

Step2
安全・安心の活動に
参加する
地域の方々が安全・安心に関する取組に参加し、身近な取組を実践します。

Step3
安全・安心なまちを
実感する
地域の方々の取組で安全・安心なまちを実感します。

図11　栄区セーフコミュニティのプロモーション

プロモーションの取組実績

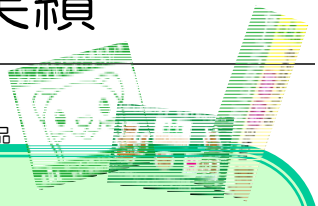


図12　啓発物品

のぼり旗やエコバッグをはじめとする啓発物品の作成、配布、貸出

図13　大船駅ポスター

駅・施設でのポスターや横断幕掲出

ステージでのパフォーマンスやイベントブースでのPR

図14　パフォーマンス等

【さかえ竹の鼓KIDs♪】　【さかえっ子体操】

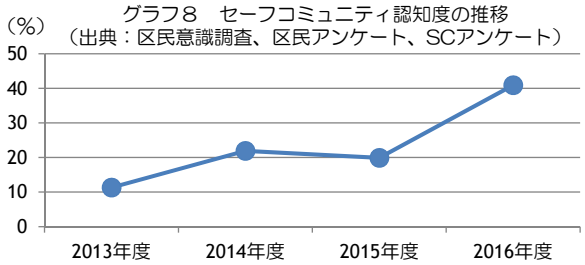
プロモーションの課題

- 2016年度に認知度は40%を超えたが、過半数の区民はセーフコミュニティを認知していない

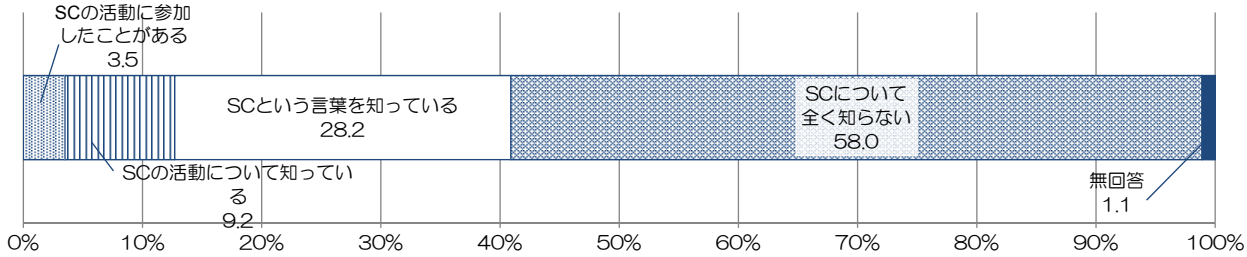
2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
11.3%	21.9%	19.9%	40.9%

表11　セーフコミュニティ認知度の推移
（出典：区民意識調査、区民アンケート、SCアンケート）

グラフ８　セーフコミュニティ認知度の推移
（出典：区民意識調査、区民アンケート、SCアンケート）



- セーフコミュニティについて全く知らない人が半数以上を占め、言葉を知っている人が３割弱



グラフ９　セーフコミュニティ認知度合
（出典：セーフコミュニティアンケート　2016年度　N=631）

今後のプロモーション活動

３本の柱が中心

セーフコミュニティの活動を
知らない層
へのアプローチ

- さかえ区民活動支援協会と連携した区内施設でのＰＲ
- 駅でのポスター、横断幕、ステッカー等の掲示
- チラシ、リーフレット、啓発グッズの配布
- 広報よこはま、タウンニュースによるコラムの掲載及び特集
- 区民まつりでのＰＲ

セーフコミュニティの活動に
既に参加している層
へのアプローチ

- 区役所職員による分科会や活動団体への研修、出前講座
- 広報よこはま、タウンニュースによるコラムの掲載及び特集

区役所職員
へのアプローチ

- 庁内ネットワークの掲示板等を活用した情報発信
- 職員への研修
- 職場へのＰＲツールの配布
- 区長キャラバンの実施

図15　プロモーション活動の３本の柱

認証取得後の成果

新たな課題の発見及び対策

- PDCAサイクルによる取組実践と評価を繰り返すことで、新たな課題を発見し、それに対する対策を開始することができた（ヒートショック対策など）

新たな協働の基盤形成

- 分野別分科会が形成されたことにより、同じ分野に携わりながら地域でこれまでバラバラに活動していた区民、関係機関、行政機関が新たに連携し、区として対策を行う組織基盤ができた（自殺予防対策分科会など）

安全・安心なまちとしての誇り

- 国際認証であるセーフコミュニティの取得によって、区民や関係機関職員、行政機関職員にセーフコミュニティ都市としての誇りが芽生えた

認証取得後の課題

より詳細なデータ分析・地域診断

- 地域の取組が進んだことから、当初の地域診断より一歩踏み込んだ地域診断が必要になっているが、費用や労力の面から実現していない。また、行政区という特性上、栄区に特化した事故・けがに関するデータを取りづらい

より区民主体の取組実践

- 現在も区民が中心になった取組を数多く行っているが、行政主導で活動者が区民となっている取組も多く、区民が主体となった取組を増やしていく必要がある

分科会同士の連携

- 取組によっては対象者が重なっている場合があるが、現在はあまり連携ができておらず、より効率的・効果的に取組を進めるために横の連携が必要となっている

今後の方向性と展望

地域診断の再実施

- 医療機関データや、ヒヤリハットに関するデータを集める新たな仕組みの検討も含めた、地域診断再実施の可能性を探り、より実効的な取組へとつなげる

プロモーションの推進

- より区民が中心となった活動を推進するため、「セーフコミュニティ」という名前を知ってもらうだけのプロモーションから、具体的な中身に関するプロモーションの展開へとステップを進める

分科会同士の連携

- 合同分科会の開催などを視野に入れながら、取組の対象者が重なる部分などで分科会同士の連携を図り、効率的な取組の推進を目指す

ご静聴ありがとうございました

こどもの笑顔あふれるコミュニティを目指して